



安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第5号

きらきらByeランド

JA庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

天候に合わせた水管理で活着促進！ 除草剤の使用は適期を逃さずに！

本年は、4月下旬からの高温により一部で高温障害が見られたものの、好天により春作業は順調に進んでいます。乾燥の進んだ圃場では地力窒素の発現が期待されますが、田植え後の水管理を徹底し、早めの茎数確保に努めましょう。

仙台管区气象台の1か月予報（5月3日発表）によると、天気は数日の周期で変わりますが、平均気温は平年に比べ高い見込みです。田植えは好天日を選んで行い、保温的水管理で活着を促進し、初期生育確保に努めましょう。

技、其の一 乾土効果の発現は？

今年は、乾土効果が“平年並”と見込まれています。初期生育を確保するため、田植え後の保温的水管理を徹底しましょう。

技、其の二 発根・活着を促進させる保温的水管理

田植え後は、水深4～5cm程度の発根・活着を促進させる保温的水管理が重要です。（畦畔の漏水防止対策として、畦畔ポリ等の使用は早めに設置する。）

活着後、分けつを促すために、日中は止め水にして、水深2～3cmの浅水管理とし、給水は、夕方または早朝に行い、昼夜の温度較差をつけましょう。

また、例年、田植え後の強風や低温の影響で初期生育の停滞が見受けられますので、強風時は一時的に5～6cmの中水にして稲体の保護に努めましょう。

技、其の三 土壌の還元(ワキ)は根の活力を阻害します

乾燥が不十分のまま耕起された圃場では、田植え後、好天が続くと土壌の還元(ワキ)が急激に進むことが予想されます。土壌が還元状態になると、有害ガスの発生により根の活力が低下し、初期生育の停滞につながります。特に重粘土地帯等では注意しましょう。

★還元状態のチェック

- ・圃場に入って歩くとブクブクと泡が出て、臭いニオイがする
- ・活着後の葉色が薄い

★主な対策

- ・温暖な日を選び、水交換を行いましょ。
- ・2～3日程度軽く田干し（ガス抜き）を行いましょ。
- ・例年、ワキがひどい圃場では、VSこがね液（5 $\frac{1}{2}$ ℓ/10a）の田植え直後の使用が効果的です。

技、其の四 除草剤の散布は遅れずに！

除草剤は、代かきからの日数やノビエの発生状況を確認しながら遅れないように散布しましょ。

★散布後7日間は止め水とし、除草効果を高めましょ。

★散布する前は、畦畔の補修、畦畔ポリ等で漏水対策を行いましょ。

★アオミドロ、表層剥離の発生が見られる場合は、必ず水の交換を行ってから散布しましょ。またフロアブル・ジャンボ剤の強風下での使用は、薬剤が一定方向に偏ることがありますので避けましょ。

（湛水深は5cm
処理後7日間は水を動かさない）



平成30年度 JA庄内みどりの主な推奨除草剤一覧

区分	除草剤名	10a散布量	使用時期
体系処理剤	エリジャン乳剤	300ml	移植直後～ノビエ1.0葉期
	ソルネット1キロ粒剤	1kg	
	メテオ1キロ粒剤		
中期剤	ザーベックスDX1キロ粒剤	1kg	移植後20日～30日
	テッケン1キロ粒剤		移植後15日～ノビエ4.0葉期
	ワイドショット1キロ粒剤		
初中期一発剤	1キロ粒剤	1kg	移植直後～ノビエ2.5葉期
	バッチリ1キロ粒剤		移植後5日～ノビエ3.5葉期
	コメット1キロ粒剤		
	ボデーガードプロ1キロ粒剤		
フロアブル	ビクトリーZ1キロ粒剤	500ml	移植直後～ノビエ3.0葉期
	バッチリフロアブル		移植直後～ノビエ2.5葉期
	コメットフロアブル		移植後5日～ノビエ2.5葉期
	ボデーガードプロフロアブル		移植後5日～ノビエ3.5葉期
ジャンボ	ビクトリーZフロアブル	40g×10個	移植後5日～ノビエ3.0葉期
	バッチリジャンボ		移植直後～ノビエ2.5葉期
	コメットジャンボ		移植後5日～ノビエ2.5葉期
	ボデーガードプロジャンボ		移植後5日～ノビエ3.0葉期
顆粒	ビクトリーZジャンボ	40g×10個	移植後5日～ノビエ3.0葉期
	コメット顆粒	80g	移植直後～ノビエ2.5葉期

※ 特別栽培および直播栽培で使用できる除草剤は、限定されますのでご注意下さい！！

※ 春は作業が集中します。農薬使用等の正確な記録の為、農作業記録野帳への記帳を忘れずに！！

★残り苗は田んぼに放置しない！⇒いもち病の伝染源になります。

補植苗一斉撤去デー 6月2日(土)・3日(日)

大豆は、「土づくり」と「庄内みどり大豆一発号」で多収を！！

〇〇〇 目指そう！240kg/10a 〇〇〇

今年も庄内みどり産大豆ブランド確立の為、下記栽培暦に基づいた大豆版トレーサビリティ体制を構築していきますので、基準順守による良質大豆の生産に努めましょう。
排水・土づくり等の基本技術を徹底して実施することが、高品質大豆安定生産への最低条件です！

大豆栽培暦

(品種) リュウホウ・エンレイ・里のほほえみ

作業項目	時期	ポイント	10a 当たり資材等
排水対策	4月中旬	○圃場の周囲に明渠を実施する(深さ40cm)。 ○サブソイラーにより暗渠の排水効果を高める。	最重要対策！
土づくり 施肥 耕起	5月中旬 ～ 5月下旬	○土壌PHは、大豆に好適な6.0～6.5に矯正する。 ○2回耕起とし、耕深15cm砕土率70%以上を確保する。	堆肥 1～2t 発酵鶏糞ペレット 75kg 粒状苦土石灰 120kg 大豆一発号 40～50kg 黒ひかり 40～60kg 大豆化成684 40kg
種子準備	5月中旬	○大豆栽培初年目の圃場では根粒菌の接種がです。 注:根粒菌は直射日光に当てないこと。	種子 3.5～4.5kg キヒゲン 35～45g (種子量の1%) 又は キヒゲンR-2フロアブル 70～90ml (種子1kgに20ml)
は種	5月下旬 ～ 6月上旬	○5月20日～6月10日頃	条間75cm 株間18～22cm 2粒点播 (12,000～15,000本/10a)
除草	5月下旬 ～	○乳剤は、10a当り100%の水で希釈して散布する。 ※散布液量が不足すると除草効果が劣るので注意する。	クアターン細粒剤F 4～5kg クアターン乳剤 600～800ml トリアノサイト粒剤2.5 4～6kg トリアノサイト乳剤 250～300ml エコトップ乳剤 500～600ml ラッソー乳剤 300～400ml のいずれかを選択する。

◎【ネキリムシ類の防除】

- ・クルーザーFS30 種子塗沫処理(乾燥種子1kg当たり原液6ml)
【塗沫処理順序 ①クルーザーFS30 ②キヒゲン ③根粒菌】
- ・クルーザーMAXX 種子塗沫処理(乾燥種子1kg当たり原液8ml)
【塗沫処理順序 ①クルーザーMAXX ②根粒菌】
- ・カルホス微粒剤F 播種時に散布(6kg/10a)し、土壌混和する。

農業の保管と空容器の処理について

◆農業の保管は、保管庫に必ず鍵を掛けて保管しましょう。又、使用済みの農業の空容器等は、各支店・各資材店舗で年2回実施している農業用廃プラ回収日に処分しましょう。



《園芸情報》 アスパラガスの管理について



1. 本圃準備・施肥

アスパラガスは定植したらそこで何年も栽培を続けることになるため、定植前の深耕、有機物施用による土壌改良を行うことが重要です。完熟堆肥を10a当たり10～30t全面施用し、深耕ロータリー等を利用して30cm以上深耕するようにします。土壌pHは5.8～6.8を目標に土壌改良資材(石灰資材等)施用します。

10a当たりの施肥量は、成分でN:15kg、P:10～18kg、K:10kg程度を目安に施用します。

2. 定植準備

畝幅は150～180cm、ベット幅は60cmを目安とし、転作田等の排水しにくい圃場では高さ15～20cmの高畝にします。土壌水分の確保や雑草対策にマルチを被覆します。マルチ内には、株元から15～20cm程度離れた位置に灌水チューブを設置します。

3. 定植

株間は30cmとし、深さ7～10cm程度に植え付け、マルチの開口部を塞ぐように覆土します。植え付けが深すぎると葉が伸長しなかったり、葉が伸びても茎が伸長してなかったりしますので注意しましょう。

4. 定植1年目の管理(茎葉管理)

定植1年目は収穫を行わず、茎葉の管理に努めます。支柱を立て、フラワーネット(4目)を張ります。ネットの位置は地際部から50cmの高さにします。倒れた茎は地際部から取り除きますが、可能な限り茎は倒さないように管理します。

灌水は、生育状況、土壌条件、時期にもよりますが、2～3日に1回を目安に行い、乾湿差がでないように管理します。

5. 定植2年目以降の管理(収穫・株養成)

定植2年目から収穫が始まりますが、若茎が30cm程に伸び、先端が開く前に地際から刈り取りましょう。若い株は株養成に重点を置き、春季の収穫期間を短くします。春季の収穫期間については、収穫芽の太さ(例えば、2L・L階級が減少し、S階級が増えてきたら終了する)、収穫芽の状況(穂先の開き、曲がりが見えたら終了する)等を観察して決定します。

春季の収穫後は夏秋季の収穫に向けた、親茎を立茎します。親茎として立茎する茎は、直径1～1.5cm程度のものを選び、株当たり4～5本を目安に立てます。目標とする親茎数を確保することができたら、除草や下枝かき、扁平や曲がり等の奇形となった若茎の除去をこまめに行います。その後は、親茎を順調に生育・維持させながら、6～9月にかけて萌芽してくる若芽を収穫していきます。

6. 防除

病気は斑点病・茎枯病・灰色カビ病が発生します。基本的に銅剤等による予防防除に努めましょう。害虫はアザミウマ類・カメムシ類・ヨトウムシ類・オオタバコガが発生します。農薬や病害虫等に関する疑問・質問は各園芸センターへお問い合わせください。

★次号の発行は6月11日です！



つや姫・雪若丸情報コーナー



植込み本数は70株/坪、5本/株植えて

○疎植では、初期茎数の確保が遅れ、その後の肥培管理に影響します。植込み本数を100本/m²程度を目安とし、疎植を避けましょう。

○適期移植とその後の保水的水管理により速やかに活着させ、初期生育を促進しましょう。